

成田東三丁目所在民間信仰石造物



〔登録年月日〕平成九年一月二〇日
〔種別〕有形民俗文化財（信仰）
〔名称〕成田東三丁目所在民間信仰石造物
〔点数〕三基
〔所有者等〕個人
〔所在地等〕成田東三一―五―四

成田東三丁目所在民間信仰石造物

三基の石造物は、現在では五日市街道の旧道で通称「白幡の坂」と呼ばれている急な坂道と、「馬橋みち」と呼ばれる古い道とに挟まれた三角形の西向きに開けた台地の突端に安置されている。「白幡の地藏さん」と呼ばれている本石造物は三基とも念仏供養塔で、右から元禄一年（一六九八）銘地藏菩薩立像、宝暦一〇年（一七六〇）銘馬頭観音菩薩立像、宝暦三年（一七五三）銘地藏菩薩立像である。

本石造物を造立した白幡地区の念仏講中は、二基の地藏塔の銘文によると一六人から一七人によって構成されていた。中央の馬頭観音像の銘文にも「念仏講中」とあるが、一般に念仏供養塔の尊像には観音菩薩像や地藏菩薩像が用いられることが多く、この念仏供養塔が、五日市街道沿いの集落に作られた念仏講によって造立されたことは、交通安全や馬匹供養の信仰である馬頭観音信仰が念仏信仰と結びついたものとして珍しい。

現在も本石造物を信仰対象とする念仏講が存在する。この念仏講の古い記録はないが、昭和初期まで白幡地域の農家を中心に地藏前で念仏・和讃を唱えるなどの活動を行っていたことから、石造物を造立した白幡の念仏講中の後身であると思われる。

比較的資料の少ない旧成宗村白幡地域の石造物で、かつ区内において信仰の対象である石造物の祭祀組織が生きている

数少ない民俗資料として重要である。

【文化財所在地】

